

Fuun

あなたの暮らしに、新しい風

FUKUYA LIFESTYLE MAGAZINE

TAKE
FREE



vol. 4

田舎で暮らす

心地よい場所で生きるひとたちの、それぞれの物語。

山エリア -Ino town-

心地よさを求めたどり着いた、山での暮らし。

土地を受け継ぐという選択

「もともとこの場所で家を建てることは、まったく考えていなかった」と話すご夫婦。家づくりを検討しはじめた当初は、高知市やいの町中心部で土地探しをしていたことも。しかし、どの土地も思いのほか高く総予算を考えると予算オーバーに。一度は家づくりを諦めかけたこともあったのだとか。

そんなとき、建築会社の営業担当に「持っている土地はないですか？」と聞かれたことがきっかけに、奥様の祖父が亡くなり空き家になっていたこの場所が浮上。



当時はまったく眼中になかったが、予算や理想の暮らし…自分たちが家づくりに求めるものをじっくり考えるなかで、

いつの間にかしっくりと来るようになっていたという。いざ土地の調査をしてもらうと、地盤改良や、裏手の擁壁などの整備費用はかかったが、新たな土地購入と比べ大幅に費用を抑えることが出来た。そして将来は、奥様の両親との同居も視野に入れ、少し坪数にゆとりを持たせた計画に。まさかの土地えらびは、家族みんなが嬉しい選択になった。

「不便」をたのしむ豊かさ

この場所での暮らしも、もうすぐ3年になる。「住み始めるまではすごく不安でしたが、あっという間に慣れました。人間何事も慣れるものですね」と奥様が笑った。最も心配していた通勤も、信号が少ない田舎道のおかげで通勤時間はほとんど変わらなかったという。

おまけに、自然豊かな通勤コースには四季をたのしめる魅力も。子どもとの休日は「公園が近くにあったらな」と思うこともあるというが、近くの吊り橋まで散歩をしたり、川で遊んだりと家族でのんびり自

然をたのしむ時間も大好きなのだとか。



また、意外にも近くにカフェなどのお店が多く、カフェ好きの奥様は近場のお店を少しずつ開拓中。住めば住むほどに、たのしみが広がっているという。

それぞれを感じる、心地よさ

山の景色を臨む窓際のベンチで、コーヒーを飲む。それは、夫婦ふたりが夢見たことだった。多くを語らないご主人も、生まれ育った山間の実家と似た環境にすっかり来ている様子だという。

また、子どもたちについて尋ねると「子どもたちにとっても、いい選択をしたと思っています。特に、大人数が苦手な長男にとって、田舎ならではの少人数の学校生活は居心地がいいようで生き生きとし

ています。親目線でも、先生の目が行き届いている環境に、安心して送り出せるようになりました」と話した。



そんなふうに、予期していなかったこの場所での暮らしは、思わぬ形で家族それぞれにフィットしていた。家づくりのなかで、じぶんたちの求める“心地よさ”を考えつくし、たどり着いた居場所だからこそ、そこにはたのしく心豊かな暮らしが育まれていた。



長尾様邸

家族構成: 4人
施工年: 2020年12月
構造: 木造二階建て
延床面積: 34.32坪



1.開けた山の景色をいっぱい楽しめるように、あえて東側に大きなりビング窓をとった。2.玄関から直接キッチンへ入れる動線で、重たいお米なども楽にキッチンまで入れられる。3.お菓子づくりが趣味の奥様。この日も、美味しいパウンドケーキをささっとつくってくれた。



海エリア - Susaki City -

“海を臨む暮らし”

リビングにある窓いっぱいに広がる、穏やかな海の景色。マリンスポーツを楽しむひとたちの姿、まるで絵のように見えた。

山本さん一家の住まいは、高知県須崎市浦ノ内の湾岸に建つ平屋。「海が見える家に住みたかったんです」そう話すと夫婦ふたりが出会ったのは、東京だった。結婚を機に、ご主人の地元高知へ移り住んだという。家を建てることを考えたときに、海が見えるロケーションで津波の被害が少ない場所を考え、浦ノ内をえらんだ。

災害の心配について尋ねると「この場所に長く住む近所のかたから、以前の南海大地震のときも、目の前の堤防は超えなかったと聞いた。今では堤防も新設されたし、この土地も浸水対策として盛り土で土地を上げる造成をしているので、あまり心配はしていません」と話した。近くには、新築も増えているという。この家に引っ越して、大人も子どもも家にいる時間が大好きに。特に気に入っているのは、やはりリビング窓から見える海の景色。海の色は天候で変わるそうで、天気の良い日に見える青い海は、何度見ても心が弾むのだとか。ご主人は「朝の海を眺めながら、コーヒーを片手に一服する時間が最高なんです」と、嬉しそうに話してくれた。

潮干狩りが趣味の奥様は、休日は子どもたちや友人と近くの海へかけていくことも。家族それぞれが、思い思いに海のそばでの暮らしを楽しんでいるという。また、意外にも「塩害」はあまり気になっておらず、対策としては、台風の後にサッシをすぐに水で洗い流しておくくらいなのだとか。気になる洗濯は、元々室内干しの計画でランドリールームをつくっていたため心配はなく、WICともつながる家事動線は、奥様のお気に入りだという。

一大好きな海を臨むご機嫌な暮らしは、
おほかたであわせに満ちていた。



山本様邸

家族構成：5人 / 施工年：2022年7月
構造：木造二階建て / 延床面積：40.13坪



テーマ 自由に生きる二拠点生活

“小さな平屋で、シンプルに暮らす”

夫に先立たれたことをきっかけに、故郷である四万十町へ小さな平屋を建てることを決めた池尾さん。高知市内と四万十町を二週間おきに行き来する二拠点生活をはじめて一年。高知市内では友人と食事やお買い物を楽しみ、四万十町では兄弟の農作業の手伝いや、家庭菜園をのんびりと過ごしている。

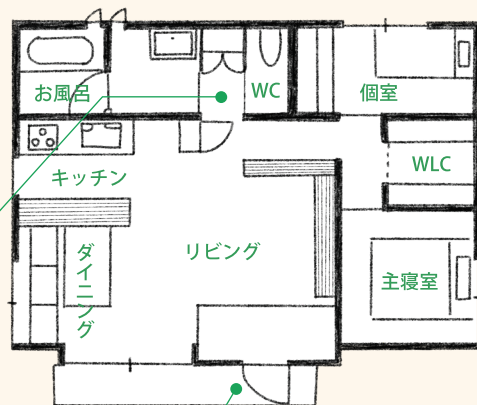


Point 1

シンプル、だからこそ

平屋だからその、効率的な家事動線が気に入っているという池尾さん。実は、この家は当社の規格住宅。「あるものに合わせて生活する選択が、自分には合っていたと思う」と話してくれた。規格住宅を選んだことで思いのほか予算にも余裕が生まれ、引っ越し後はお気に入りの家具を少しずつ揃えることが楽しみになっているという。

間取り図



Point 2 自然を感じる暮らし

この夏は、大阪に住む息子夫婦が一週間滞在。縁側で自然を感じながらビールを飲むなど、都会暮らしでは味わえない自然を満喫していたのだとか。また、最近では少しずつ近所付き合いもうまれ、近くの川で獲った鮎の炊き込みご飯や、新鮮なとれたて野菜のいただきものなども増えたそう。



池尾様邸

ご家族構成 | 1人
施工年 | 2022年6月
延床面積 | 18.03坪
構造 | 木造平屋建て

宅建士 & 土地家屋調査士
ダブルライセンス /
不動産スタッフ
岡田の
田舎の土地探し
Q & A



Q 建築ができない土地があるって、本当？

本当です。田舎は、法規制で建築ができない“市街化調整区域”に指定されるエリアも多いので特に注意が必要です。役所調査は、当社でも代行可能ですのでぜひお気軽にご相談ください。

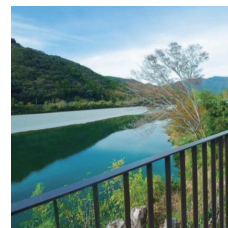
Q 土地を整備する費用の相場はどのくらい？

土地の条件によりますが、数十万～数百万かかることも。もともと田畑として使われていた場合などは、インフラ整備の費用が高額になるケースが多くなります。購入前に、建築費用と合わせてトータルの予算をしっかり把握しておくことが大切です。

他にも、田舎暮らしの土地選びの注意点は
こちらのブログをチェック ▶▶



FUKUYA produce cafe



ランチメニューを、フレンチへ新しました！

絶景がひろがるこの場所での時間が、より特別なものになるように。ランチメニューをリニューアルしました。経験豊かなシェフのつくる料理と、melbaさん監修のスイーツを、新たに生まれかわった「COCAGE」でお楽しみください。

吾川郡いの町にあるカフェ・ドッグラン
COCAGE Villa FUKUYA
@cocagevillafukuya



COCAGEに続く2号店が
本社2階にOPEN!こちらも
ぜひ、チェック!

CAFE FLAG
@bistrocafe_flag



Next Issue
10月29日 発行
vol.5
家具と暮らし

【発行元】
フクヤ建設株式会社
〒781-0015
高知市薮野西町3-35-29
☎ 088-845-4618
✉ fukuya@fukuya-h.co.jp
📱 @fukuya.kochi